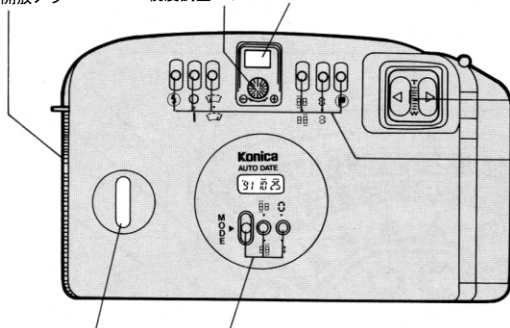
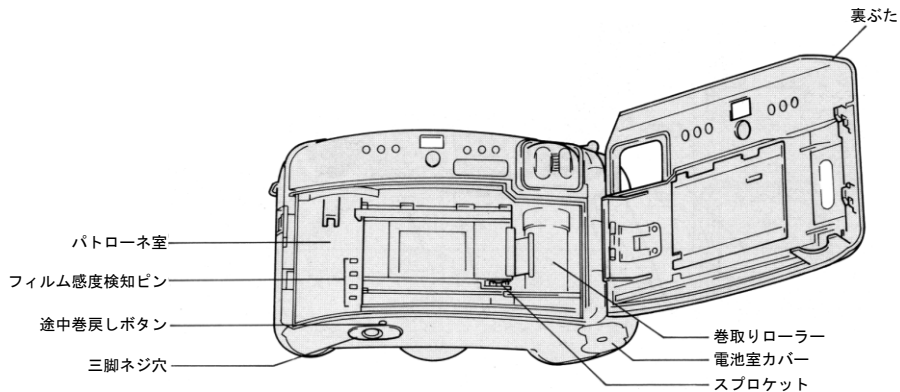
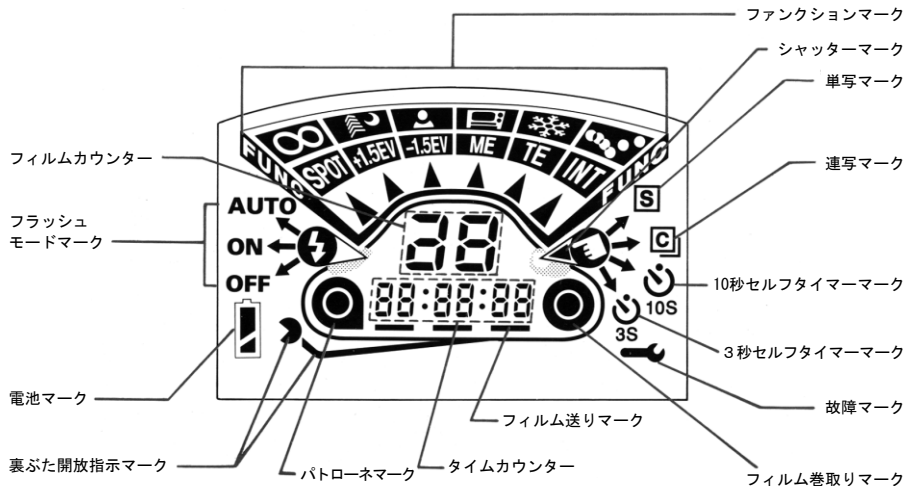
Konica AiBORG

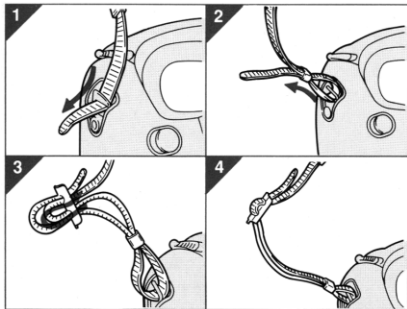
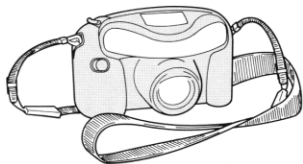
使用説明書

各部の名称

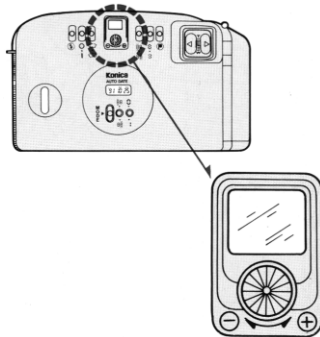
オートフォーカス窓
タイミングインジケーター
メインスイッチ
フラッシュ
ストラップ取り付け部
ファインダー窓
AE受光窓
ケーブルスイッチ
接続ソケット
シャッターボタン
レンズ

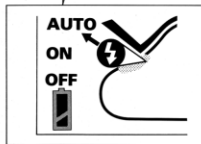
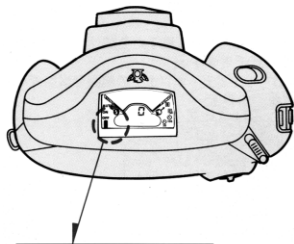
裏ぶた開放ノブ
視度調整ノブ
ファインダー接眼窓
ズーム／AFフレーム移動ボタン
撮影モード切替えボタン
Konica
AUTO DATE
MODE
フィルム確認窓
オートデート切替／修正ボタン

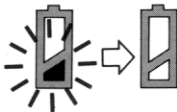
裏ぶた
パトローネ室
フィルム感度検知ピン
途中巻戻しボタン
三脚ネジ穴
巻取りローラー
電池室カバー
スプロケット

撮影表示パネルについて

●すべての液晶を表示してあります。

ストラップの取り付け方

視度調整について

近視や遠視の方は、視度調整ノブを回してファインダー内マークが眼鏡無しではっきり見えるように調整してください。
フィルムを入れる前に裏ぶたを開けてノブを回すと簡単にできます。

＊ ＋0.5～－2.5ディオプターの範囲で調整することができます。

電池について

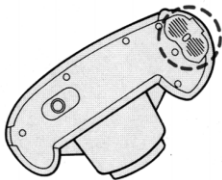
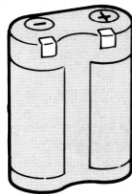
このカメラにはあらかじめ電池がセットされています。
撮影の前には必ず電池マークを確認し､電池の状態をチェックしてください。

電池のパワーは充分です。

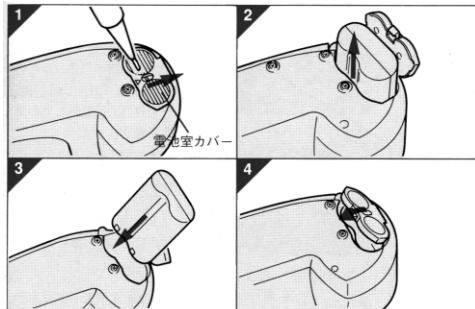
残り少なくなっています。
新しい電池に取替えてください。

電池のパワーがなくなりました。
もうシャッターは切れません。

＊ 電池交換は必ずフィルムを巻戻してから行ってください。

＊ 連続的にフラッシュ撮影をすると､電池のパワーは充分でも マークになることがあります。
しばらく待ってからもう一度シャッターボタンを軽く押してください。
マークになればそのまま撮影できます。

電池交換のしかた

1 先の細い物などを使い、電池室カバーを開けてください。
2 古い電池を取り出してください。
3 新しい電池を正しく入れてください。
4 電池室カバーを閉めてください。

＊ 使用できる電池は、リチウム６ボルト2CR5タイプです。

ご注意

1 フィルムを入れたまま電池を交換したときはフィルムカウンターが 1 になりますが撮影は続けられます。
2 電池交換後はオートデートを修正してください。

ファインダーとズーミングについて

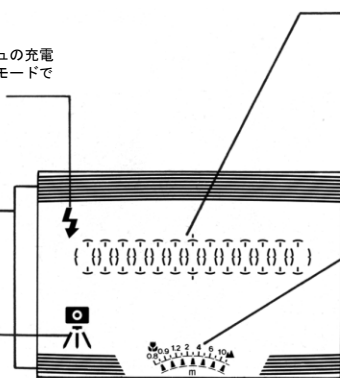
■ ファインダーについて

フラッシュマーク
フラッシュが発光するとき、フラッシュの充電中に点灯します。また、フラッシュOFFモードで低輝度連動外のときは点滅します。

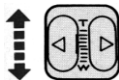
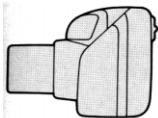
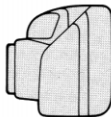
AFフレーム
この範囲の被写体にピントが合います。AFフレーム移動ボタンを使って左右に移動することができます。

撮影範囲フレーム
実際に写る範囲です。ズーミングに連動して撮影範囲も変化します。焦点距離をかえシャッターボタン半押しで変化します。

測距マーク
ピントと露出の合ったとき(AF/AEロック)に▲(指標)が点灯し、被写体までの距離を表示します。
被写体までの距離が0.8m以下の場合は▲(指標)が点滅して警告します。
フラッシュ充電中は▲(指標)は点灯(点滅)しません。

三脚マーク
撮影条件が手ぶれの発生しやすいときに点灯します。このマークが点灯したときには三脚などを使って、カメラを安定させてから撮影しましょう。

● すべての液晶を表示してあります。

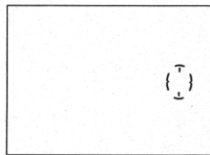
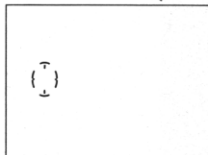
■ ズーム／AFフレーム移動ボタンについて

● ズーム

ボタンを上側に押すと望遠、ボタンを下側に押すと広角になります。

(望遠105mm↔広角35mm)

■ ファインダー視野はズームレンズと連動していますので、見たままが撮影できます。

● AFフレーム移動

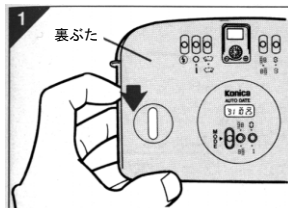
ボタンを左右に押すごとに、AFフレームを左右に移動することができます。

＊ 移動できる範囲は左右各々中央から2ステップづつです。

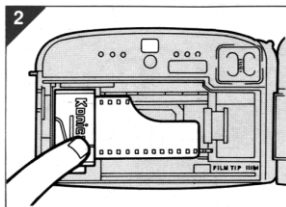
＊ ズーミングに連動して補正されます。

● AFフレームは、105mmで左右最大に振ったときの位置です。

基本撮影　1

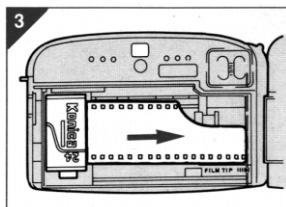
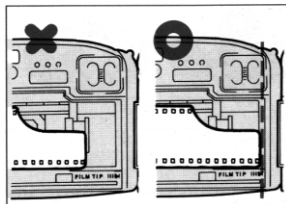
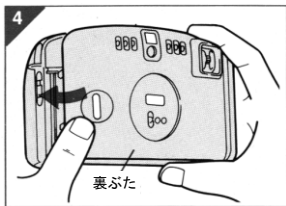
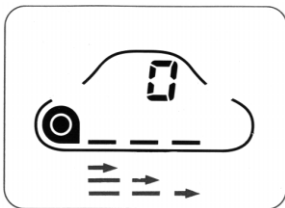
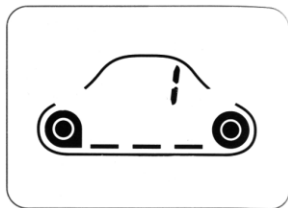
フィルムの入れ方、ファインダーの見方、カメラの構え方、撮影のしかた、フィルムの取り出し方など、基本的な撮影のしかたを説明します。

フィルムを入れてください

裏ぶた開放ノブを押し下げ、裏ぶたを開けてください。

＊ フィルム確認窓でフィルムが入っていないことを確認してください。

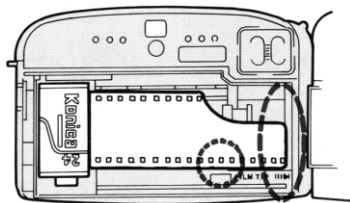
● コニカカラーフィルムのご使用をおすすめします。

フィルムをパトローネ室に入れてください。

＊ カメラ内部のレンズに触れないようにご注意ください。

＊ もしレンズに指紋を付けたりゴミが付いたときは、軟らかい乾いた布で拭き取ってください。

フィルムの先端をマーク(FILM TIP▪▪▶|)まで引き出してください。

裏ぶたを閉じてください。

フィルムは一枚目の位置まで自動的に送られます。

フィルムが正しくセットされると図のように表示されます。

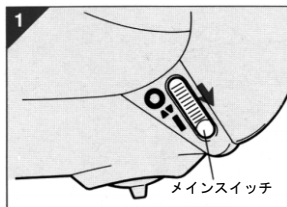
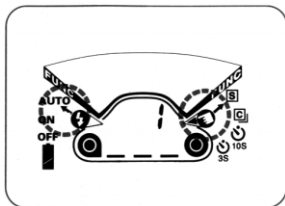
■ フィルムが正しくセットされていないと図のような表示になり、フィルムは正しくセットされていません。裏ぶたを開けて初めからやり直してください。

＊ フィルムが正しくセットされていないとシャッターは切れません。

■ フィルムの位置を確認してください。
スプロケット(フィルム送り歯車)がパーフォレーション(フィルム送り穴)から出るようにして、フィルム先端をFILM TIP■■▶|マークに合わせてください。

■ DXコードについて
このカメラはフィルム感度を自動設定するDX対応カメラです。
リバーサルフィルム(スライド用)はISO25、50、100、200、400
をご使用ください。

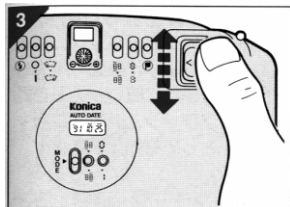
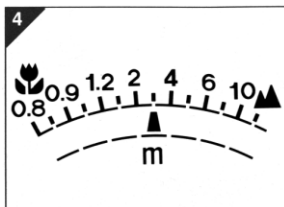
使用フィルムの感度とセットされるISO

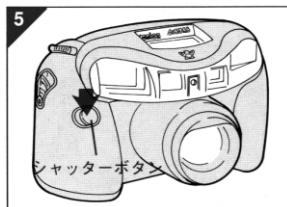
セットされるISO感度	25	50	100	200	400	800	1600	3200
使用フィルムの感度（ISO）	25 32 40	50 64 80	100 125 160	200 250 320	400 500 640	800 1000 1250	1600 2000 2500	3200 － －

撮影のしかた

メインスイッチを入れてください。(O=オフ、|=オン)

撮影表示パネルが図のようになりますと撮影準備完了です。

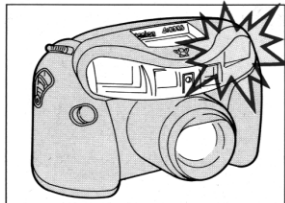
ファインダーをのぞき、AFフレームを写したいものに合わせてください。

＊ ピントを合わせたい被写体が画面中央にないときは、フォーカスロック撮影をしてください。

＊ 逆光線で撮影すると、レンズ内部での反射などにより部分的に不要な光(ゴーストイメージ)が写り込むことがあります。

ズームボタンを押してご希望の構図を選びます。

シャッターボタンを半押し(軽く押す)しますと▲(指標)が被写体までの距離を示します。

* 被写体に近づきすぎてピントが合わない場合は、▲(指標)が全部点滅し、シャッターがロックされます。
* 35cmより近づくとシャッターは切れますのでご注意ください。

シャッターボタンをさらに深く静かに押してシャッターを切ってください。

* 撮影が終わったらメインスイッチを切ってください。
  なおこのカメラはオートオフ機能により25分以上たちますと自動的に電源が切れます。
* オートオフ後は撮影モード切替えボタンは働かず撮影表示パネルは変化しません。またズームレンズも引っ込みません。
* オートオフを解除するときはシャッターボタン、ズーム/AFフレーム移動ボタンを押してください。

自動フラッシュ撮影（暗いところでは自動的にフラッシュが光ります。）

暗いところでは自動的にフラッシュが光ります。

＊ シャッターボタンを半押ししますと、ファインダーに⚡が表示されます。

＊ 充電中は⚡マークが点灯しシャッターは切れません。

フラッシュ撮影の距離

W 35mm	ISO100	0.8m- 6m
	ISO400	0.8m-12m
T 105mm	ISO100	0.8m- 3m
	ISO400	0.8m- 6m

（ネガカラーフィルム使用の場合）

■ 逆光撮影のときも自動発光

このカメラのフラッシュは、逆光の人物撮影のように画面の中央がバックより極端に暗いときも自動発光し、フラッシュが人物に対する補助光として有効に働きます。

■ 人物をフラッシュ撮影するときのご注意

室内または暗いところで人物をフラッシュ撮影すると、目が赤く写ることがあります（赤目現象）。これは目の瞳孔が開きフラッシュ光が網膜に反射するための現象で、写される人により個人差があります。次の方法で赤目を減少できます。

① 照明のある明るい室内（新聞が読める程度）で撮影します。

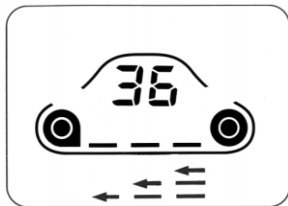
② レンズを広角側にセットし、人物に近づいて撮影します。

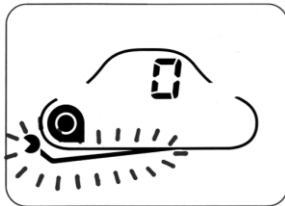
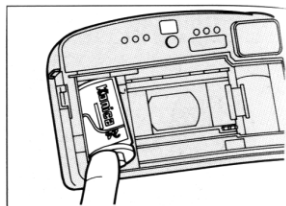
カメラの構え方

（撮影のヒント）

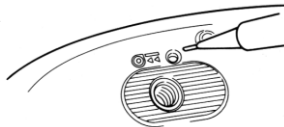
肩の力を抜きワキを締め、カメラを安定させましょう。指がレンズやフラッシュにかからないように注意してください。
右手はカメラを包むように、右手全体で絞るようにシャッターを切りますとカメラぶれを起こしません。

カメラを縦位置に構えるときはフラッシュが上になるように。親指をシャッターボタンにかけ、握手をするように、右手全体でシャッターを切ります。

フィルムの取り出し方

フィルムが最後になりますと、自動的に巻戻しが始まります。

＊ フィルムカウンターは逆算されます。

巻戻しが終わると自動的に停止し"0"が点灯、裏ぶた解放指示マークが点滅、その後点灯します。

裏ぶたを開け、フィルムを取り出してください。

フィルムの途中での巻戻し方

撮影の途中で巻戻しをするときは、カメラ底部の途中巻戻しボタンを押してください。

● 撮影の終わったフィルムは、早めにコニカカラー・百年プリントへお出しになるようおすすめします。

基本撮影　2

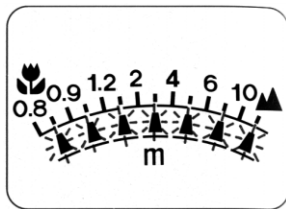
被写体に近づいて大きく写すマクロ撮影、被写体を画面の中央からずらして撮影するフォーカスロック撮影のしかたを説明します。

マクロ撮影

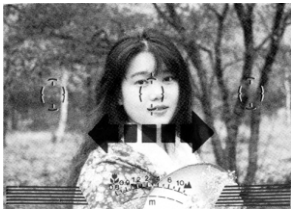
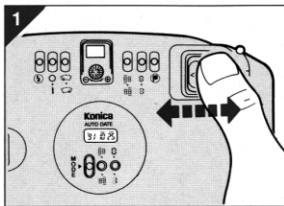
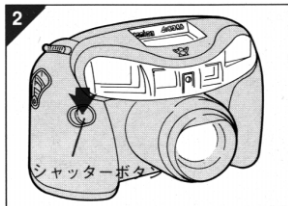
被写体に80cmまで近づいて、マクロ撮影をすることができます。

＊ レンズを望遠(105mm)にして撮影しますとマクロ効果が出ます。

(105mm時)

被写体に近づいてシャッターボタンを半押ししますと、撮影範囲マークが移動します。この範囲で構図を決めてください。

被写体が近すぎてピントが合わない場合は▲(指標)が全部点滅、シャッターは切れません。いったんシャッターボタンから指を離し、被写体から少し離れて撮影してください。

＊ 35cmより近づくとシャッターは切れますのでご注意ください。

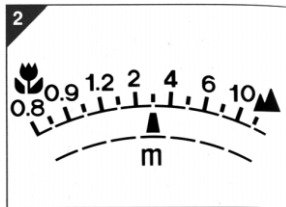
フォーカスロック撮影A（ムービングターゲット）

このカメラはAFフレームを左右に移動することができます。

AFフレーム移動ボタンを使ってAFフレームを写したいものに動かしてください。

シャッターボタンを押してください。

● AFフレームは105mmで右側へ最大に振ったときの位置です。

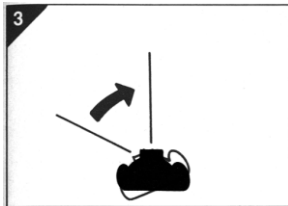
フォーカスロック撮影B（被写体を画面中央から外した撮影）

写真の両側に人物を入れたいときや、風景を中央にして人物を端においた構図で撮影するときに便利な方法です。

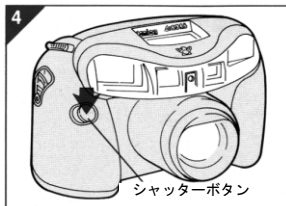
＊ このまま撮影しますと、人物はピンボケになります。

ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせます。

シャッターボタンを半押ししてください。

＊ ▲(指標)が点灯し、ピント位置が固定されます。

＊ 指をシャッターボタンから離しますとフォーカスロックは解除され、やりなおしができます。

シャッターボタンを半押しのまま、カメラの向きを変えて希望の構図を選んでください。

＊ フォーカスロックしますと、同時にAE(露出)もロックされます。

＊ フォーカスロック中に被写体までの距離を変えますと、ピントが合わなくなりますのでご注意ください。

そのまま静かにシャッターを切ってください。

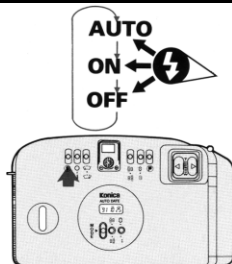
ご注意

黒い髪のように反射しにくいもの、車のボディーなど光沢のあるもの、ローソクの焔などの発光体、小さいもの、細かいものはオートフォーカスが正しく働かないことがあります。このようなものを撮影するときは被写体と等距離にあって同程度に明るく、距離の計りやすいものに向けてフォーカスロックし、カメラを被写体に向けなおして撮影してください。

● ガラス越しの撮影は、カメラをガラスに対して斜めから写せば正しい測距ができます。また、ガラス越しの遠景は無限遠モードで撮影すれば簡単です。

ここでは、日中フラッシュ、夕・夜景の撮影など、フラッシュモードを選択して撮影する方法を説明します。

応用撮影　1

フラッシュモードの切替え:赤ボタン

赤ボタンを押しますと、🡐マークが移動しフラッシュモードが循環して切替わります。

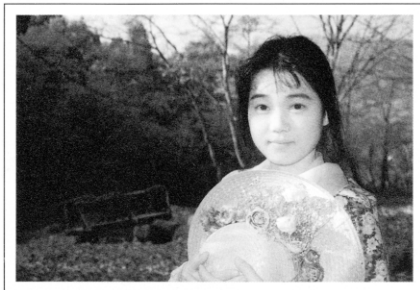
＊ 通常はAUTOモードにセットされています。

日中フラッシュ撮影（フラッシュONモード）

顔にきつい影ができるとき、くもり、日陰の人物などを撮影するときに効果的です。

赤ボタンを押して🡐をONに合わせてください。

＊ フラッシュONモードでは、明るいところでもフラッシュが光ります。

フラッシュONモード

フラッシュなし

フラッシュを使わない撮影（フラッシュOFFモード）

フラッシュを使いたくないときや、夕景の撮影にはフラッシュOFFモードが効果的です。
最長約1/8秒（35mm時）から1/30秒（105mm時）の自動露出撮影ができます。

赤いボタンを押して🡐をOFFに合わせてください。

＊ ファインダー内の⚡マークが点滅したときは、露出不足の警告です。

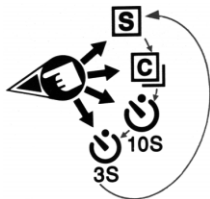
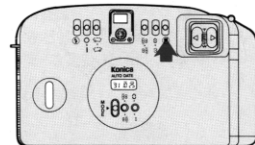
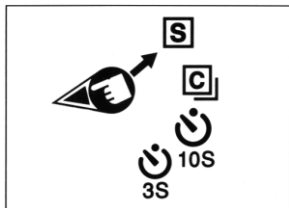
＊ 三脚マークが出るときは三脚などを使ってカメラを安定させてから撮影してください。

フラッシュOFFモード

フラッシュAUTOモード

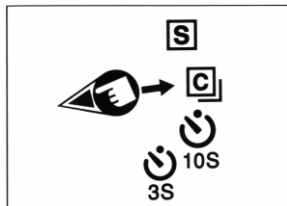
応用撮影　2

通常の写真撮影の単写と、シャッターボタンを押している間は連続してシャッターの切れる連写、そして2種類のセルフタイマー撮影のしかたを説明します。

単写･連写･セルフタイマーの切替え:緑ボタン

緑ボタンを押すと、➔マークが移動し、単写・連写・10秒セルフタイマー・３秒セルフタイマーの各モードが循環して切替わります。

S：単写(SINGLE)モード

普通の撮影モードです。
シャッターボタンを押すごとにフィルムが一枚づつ送られます。

緑ボタンを押して➔を S に合わせてください。

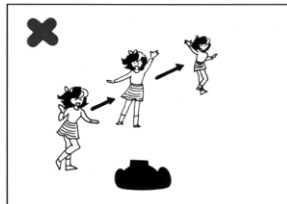
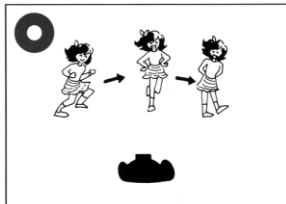
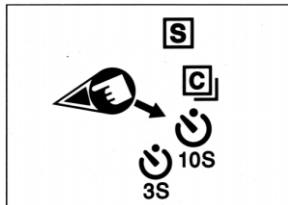
＊ メインスイッチを入れたときは単写モードになっています。

C：連写(CONTINUOUS)モード

シャッターボタンを押し続けている間シャッターが切れ続けます。動きのある被写体を連続的に撮影するときに効果的です。

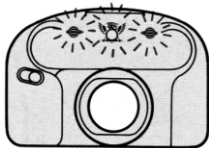
緑ボタンを押して➔を C に合わせてください。

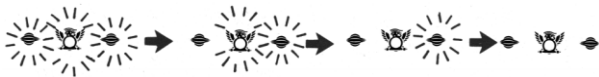
＊ ピントと露出は最初にシャッターボタンを押した時点で固定されますので、被写体までの距離が変わる場合の撮影には適しません。

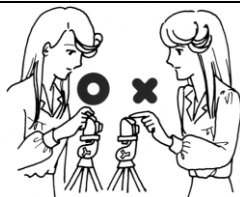
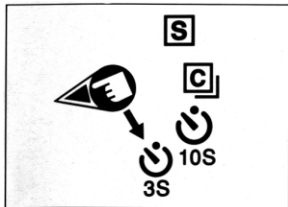
＊ 連写速度は最高１秒間に約２コマです。

＊ フラッシュ撮影では充電時間があるためシャッターの切れる間隔が長くなります。

セルフタイマー撮影A（10秒セルフタイマーモード）

全員もれなく写真にうつりたいときは、10秒セルフタイマーが便利です。
シャッターボタンを押してから約10秒後にシャッターが切れます。

緑ボタンを押して➔ を10Sに合わせてください。

インジケーターが左から右に順次点灯

残り3秒になると1秒ごとにカウントダウン

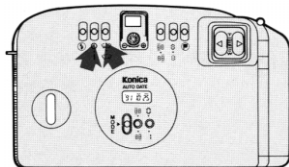
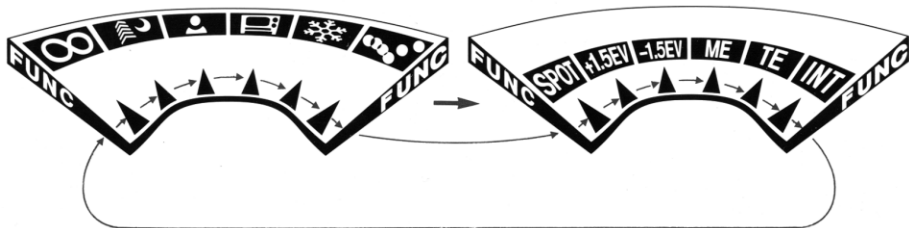
シャッターが切れます。

■セルフタイマー撮影時のご注意
シャッターボタンはカメラの後ろから押してください。
前からではシャッターロックされてしまいます。

* キャンセル（途中解除）するときはメインスイッチを切ってください。
* 三脚などでカメラを安定させて撮影してください。

セルフタイマー撮影B（3秒セルフタイマーモード）

シャッターボタンを押してから約３秒後にシャッターが切れます。長時間露出撮影をするときなど、手ぶれを起こしやすいときに便利なセルフタイマーです。

緑ボタンを押して➔ を 3S に合わせてください。

＊ 三脚などを使ってカメラを安定させてください。

ファンクションマークについて

FUNC　FUNC　→　FUNC　SPOT　+1.5EV　−1.5EV　ME　TE　INT　FUNC

左の紫ボタンを押しますと撮影機能（ファンクションマーク）が表示されます。
右の紫ボタンを押すと▲が上段の左から右へ、つぎに下段の左から右へ循環します。
希望する機能を▲で選んでください。

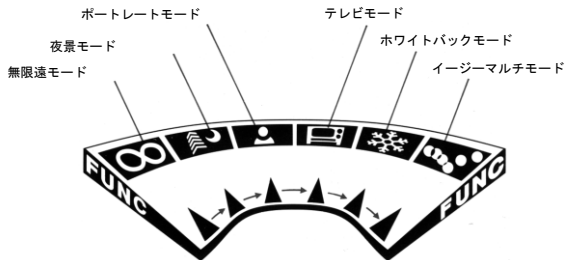
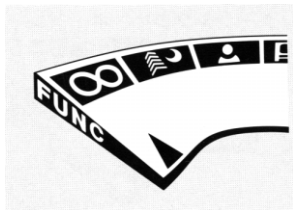
＊ 一般撮影モードに戻すときは、もう一度左の紫ボタンを押してください。

＊ 一度選ばれた設定はメインスイッチを切っても記憶されています。

＊ フラッシュモードは選ばれた機能に合わせて自動的に切替わります。

イージー
テクニック撮影

ここでは、このカメラの特長でもあるハイテク機能を使った、無限遠撮影、夜景撮影(スローシャッターシンクロ)、ポートレート撮影、テレビ撮影、白バック撮影、簡易連続多重露出撮影のしかたを説明します。

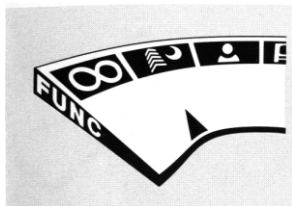
イージーテクニックモード:紫ボタン

無限遠撮影（無限遠モード）

無限遠モードで撮影しますと、遠景をシャープに撮ることができます。
また、ガラス越しの風景撮影にも便利です。

右の紫ボタンで▲を∞に合わせてください。

＊ 連写、10秒・３秒セルフタイマーモードと組み合わせ可能。

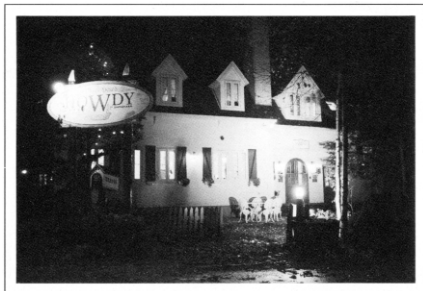
無限遠モード

ガラス越しの撮影

夜景撮影（夜景モード）

夜景撮影をするときに便利な機能です。
このモードで撮影しますと、夜景撮影が簡単にできます。
最長6.4秒までの自動露出になります。

右の紫ボタンで▲をに合わせてください。

＊ 手ぶれを防ぐため三脚でカメラを固定し３秒セルフタイマーを使って撮影してください。

夜景モード

＊ 連写、10秒・３秒セルフタイマーモード、フラッシュAUTO・ONモードと組み合せ可能。

普通の撮影

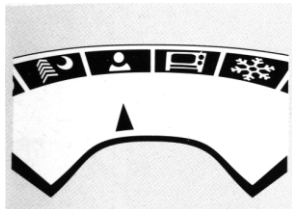
スローシャッターシンクロ撮影（夜景モード+フラッシュON/AUTOモード）

夜景モードにフラッシュAUTO ONモードを組み合わせると、スローシャッターシンクロ撮影ができます。夕景や、明るい夜景を背景にした人物撮影など、雰囲気を生かした撮影をするとき効果的です。右の紫ボタンで▲をに合わせてから、赤ボタンを押し🡐を**ON**または**AUTO**に合わせてください。

＊ 手ぶれを防ぐため三脚でカメラを固定し3秒セルフタイマーを使って撮影してください。

スローシャッターシンクロ撮影

フラッシュAUTOモード

ポートレート撮影(ポートレートモード)

シャッターボタンを半押しすると撮影距離に連動してズーミングします。
人物の写真をほぼ同じ大きさで撮りたいときに便利なモードです。

右の紫ボタンで▲を に合わせてください。

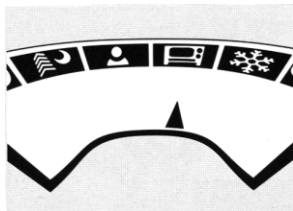
＊ 連写、10秒・３秒セルフタイマーモード、フラッシュON・OFFモードと組み合せ可能。

1.5m

2m

3.5m

＊ ポートレートモードでは約1.5〜3.5mの範囲が効果的です。

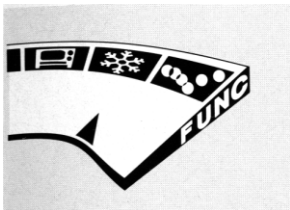
テレビ撮影（テレビモード）

これまで比較的に難しかったテレビ画面の撮影が簡単にできる機能です。

右の紫ボタンで▲を [テレビマーク] に合わせてください。

* 三脚などでカメラを固定してください。
* 連写、10秒・３秒セルフタイマーモードと組み合せ可能。
* ネガカラーはISO100、200、400のご使用をおすすめします。
* リバーサルはISO400をご使用ください。

テレビモード

普通の撮影

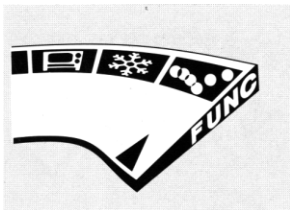
ホワイトバック撮影（ホワイトバックモード）

背景が明るすぎるときに便利な撮影モードです。
白バックでの適正露出を自動的に設定しますので、スキー場や白い壁の前での写真が簡単に撮れます。

右の紫ボタンで▲を ❄ に合わせてください。

＊ 連写、10秒・３秒セルフタイマーモード、フラッシュON・OFFモードと組み合せ可能。

ホワイトバックモード

普通の撮影

簡易連続多重露出撮影（イージーマルチモード）

動きのある被写体の動感を写したいときに便利な機能です。
シャッターボタンを一度押すと１コマのフィルムに連続して６回多重露出されます。

右の紫ボタンで▲を に合わせてください。

＊ 暗いところのフラッシュAUTOモード・ONモードでは３コマ目にフラッシュが光ります。
明るいところのフラッシュAUTOモード・OFFモードでは光りません。

＊ 10秒・３秒セルフタイマーモード、フラッシュON・OFFモードと組み合わせ可能。

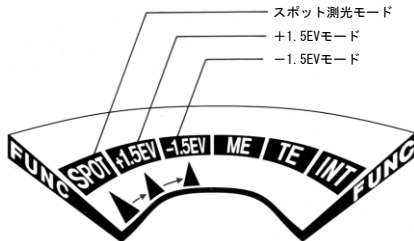
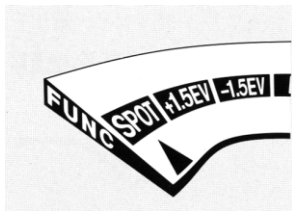
＊ 黒または暗いバックで、明るい被写体を写すと効果的です。

＊ 撮影回数を変えたいときは、連続多重露出撮影をしてください。

＊ 必ず三脚を使用してください。

露出制御撮影

ここでは、通常の自動露出撮影から一歩進んだ写真を撮るときに威力を発揮する、スポット測光、＋1.5EV、－1.5EVなど、露出を任意に変えた撮影のしかたを説明します。

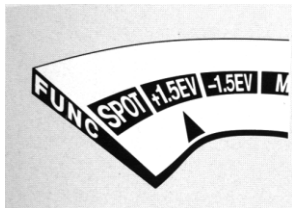
露出制御:紫ボタン

スポット測光撮影（スポット測光モード）

ある部分を重点的に測光したいときに便利な機能です。
このモードはAFフレームでとらえた被写体をスポット測光しますので、まわりに影響されることなく被写体を撮影することができます。

右の紫ボタンで▲を SPOT に合わせてください。

＊ 連写、10秒・３秒セルフタイマーモード、フラッシュAUTO・ONモードと組み合せ可能。

スポット測光モード

普通の撮影

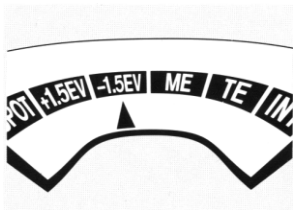
+1. 5EV露出補正撮影(+1. 5EVモード)

全体を明るく仕上げたいとき、フラッシュを使わないで逆光線の補正をしたいときなどに有効です。

右の紫ボタンで▲を +1.5EV に合わせてください。

＊ 連写、10秒・３秒セルフタイマーモード、フラッシュAUTO・ONモードと組み合せ可能。

＋1. 5EVモード

普通の撮影

−1. 5EV露出補正撮影(−1. 5EVモード)

全体を暗く仕上げたいとき、かすみがちな遠景の撮影、空の色を強調したいときに効果的です。
また、スポットライトが当ったステージの人物、黒バックの人物の撮影に有効です。

右の紫ボタンで▲を -1.5EV に合わせてください。

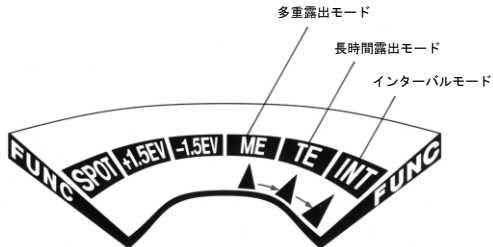
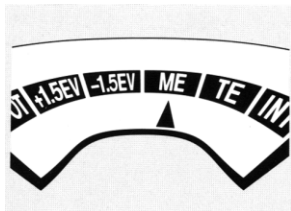
＊ 連写、10秒・３秒セルフタイマーモード、フラッシュAUTO・ONモードと組み合せ可能。

−1. 5EVモード

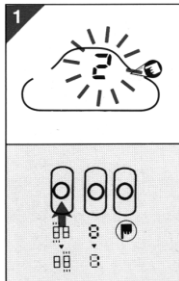
普通の撮影

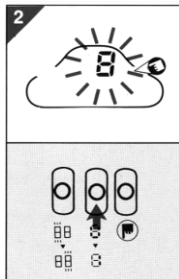
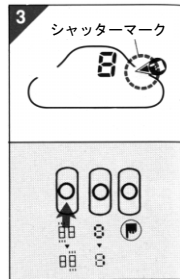
特殊撮影

ここでは、多重露出撮影、１秒以上の長時間露出撮影、一定の時間間隔でシャッターが切れるインターバル撮影など、特殊撮影のしかたを説明します。

特殊撮影:紫ボタン

多重露出撮影(MEモード)

設定した回数シャッターが切れ、一コマのフィルムに多重露出する機能です。
右の紫ボタンで▲を ME に合わせてください。
撮影回数が表示されます。
(初期設定は 2〔回〕です)

＊ S(単写)モードになっていることを確認してください。
＊ 2回から39回まで設定することができます。
＊ 連写、10秒・3秒セルフタイマーモード、フラッシュON・OFFモードと組み合せ可能。

撮影回数の決め方

左の黒ボタンを押してください。
撮影回数が点滅します。

＊ 2回目以後は前回のデータが表示されます。

右の黒ボタンを押して希望の撮影回数を指定してください。

左の黒ボタンを押して数字を点滅から点灯させ、設定してください。
シャッターマーク(◀)が現れたら設定完了です。

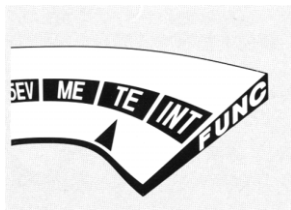
連続多重露出撮影(ME+Cモード)

こんな写真も簡単

多重露出撮影と連写 C を組み合わせて撮影することができます。動感を描写する写真を撮影するときに有効です。
比較的明るい被写体を暗いバックで撮影すると効果が上がります。
緑ボタンを一回押して連写モードにします。
一度シャッターボタンを押すだけで同一画面に連続して多重露光ができます。

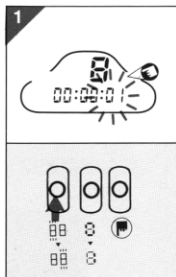
連続多重モード

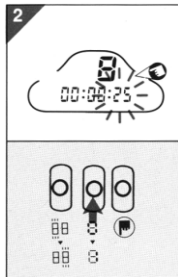
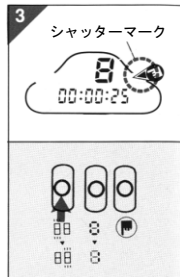
＊ 三脚をご使用ください。

長時間撮影(TEモード)

１秒から約100時間までの長時間露出撮影ができます。
夜の遠景撮影や花火を撮影するときなどに威力を発揮します。

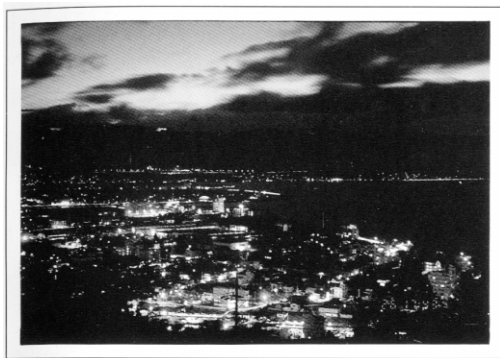
右の紫ボタンで▲を TE に合わせてください。
(初期設定は 01〔秒〕です)

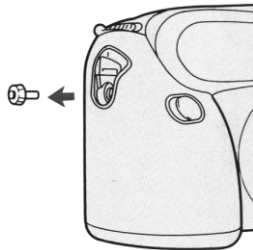
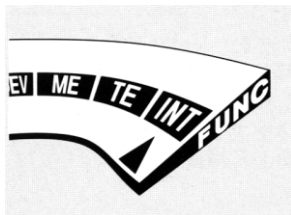
＊ 10秒・３秒セルフタイマーモード、フラッシュON・OFFモードと組み合せ可能。

時間設定の仕方

左の黒ボタンを押してください。
タイムカウンターの露出秒数が点滅します。

＊ ２回目以後は前回のデータが表示されます。

右の黒ボタンを押して希望の露出秒数を指定してください。

左の黒ボタンを押して数字を点滅から点灯させ、設定してください。

＊ １、２と同様の方法で分・時間を設定してください。
＊ シャッターマーク(◀)が現れたら設定完了です。

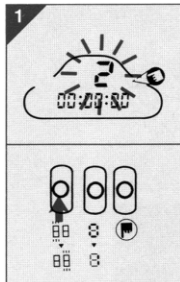
＊ 手ぶれを防ぐため三脚などでカメラを固定し、３秒セルフタイマーを使って撮影してください。

ヒント

別売のケーブルスイッチを利用しますとカメラブレの防止に役立ちます。
ストラップ取付部のカバーを外して接続してください。

インターバル撮影(INTモード)

10秒から約100時間までの設定した時間間隔で、設定した枚数分シャッターが切れる機能です。開花の様子、動植物の生態、天候の変化など記録撮影に威力を発揮します。

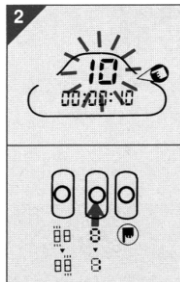
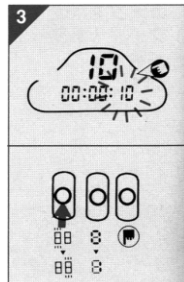
右の紫ボタンで▲を INT に合わせてください。
(初期設定は 2〔回〕10〔秒〕です)

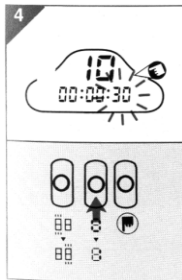
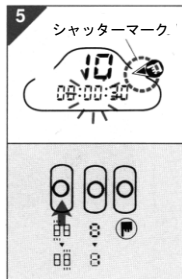
＊ 三脚をご使用ください。

＊ 10秒・3秒セルフタイマーモード、フラッシュON・OFFモードと組み合せ可能。

枚数・時間設定のしかた

左の黒ボタンを押してください。撮影回数が点滅します。

＊ 2回目以後は前回のデータが表示されます。

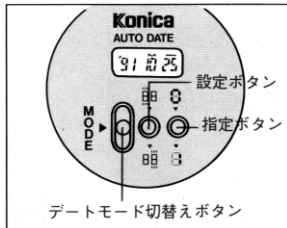
＊ 電池マークが になっているときは撮影できません。

右の黒ボタンを押して希望の撮影回数を指定してください。

左の黒ボタンを押して数字を点滅から点灯させ、撮影回数を設定してください。

＊ 39枚まで設定できますが、フィルムの撮影枚数を撮り終えますと、自動的にインターバル撮影は終了します。

次に秒が点滅しますので、右の黒ボタンで間隔時間を指定してください。

左の黒ボタンを押して数字を点滅から点灯させ、設定してください。同様の方法で、分・時間を決めてください。

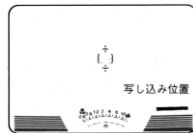
* シャッターマーク（◀）が現れたら設定完了です。

変化の模様を克明に記録することができます。

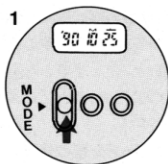
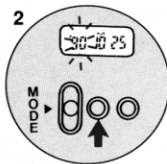
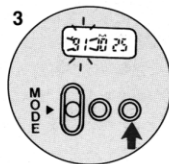
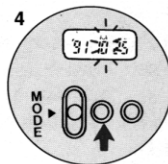
オートデートについて

オートデートとは、自動的に日付や時刻を写真の中に写し込む機能です。MODEボタンを押すとデートモードが切替わります。

MODEボタンを押すごとに、5種類のモードが循環します。

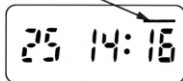
このカメラは、2019年12月31日までのカレンダー(閏年を含む)を記憶しています。

写し込みモードの変更方法

ファインダーをのぞいて、日付、時刻が写しこまれるおよその位置です。背景が白っぽいところでは、デート文字がはっきり出ないことがありますので、ご注意ください。

オートデートの修正

電池交換をしたときや、海外旅行などでオートデートの修正が必要なときは、次の手順で修正してください。

MODEボタンを押して、修正する年月日または時分をパネルに表示させてください。

設定ボタンを押して、修正する年月日または時分を点滅させてください。

指定ボタンを押して、年月日または時分を点滅のまま修正してください。

設定ボタンを押して、点滅を点灯にし設定します。同様の方法で月、日または時分を設定してください。
━マークが現れたら設定完了です。

写し込みマーク

25 14:16

分を修正した後、設定ボタンを押すと:が点滅します。もう一度設定ボタンを押して━のマークを出し、写し込みの状態にしてください。
秒まで合わせるときは:が点滅している間に、時報に合わせて設定ボタンを押します。

主な仕様

形　式	レンズシャッター式　ズームレンズ付オートフォーカス全自動カメラ
画面サイズ	24×36mm
レンズ	コニカズームレンズ　35mmF3.8〜105mmF8.5
メインスイッチ	メインスイッチONでレンズカバーが開きシャッターロック解除 メインスイッチOFFでレンズが広角に戻りレンズカバーが閉じシャッターロック
シャッター	プログラム電子シャッター　6.4〜1/500秒　電磁レリーズ
焦点調節	赤外線ノンスキャン・アクティブ式自動焦点　撮影距離：0.8m〜∞ AFフレーム移動可能　フォーカスロック可能
AE調節	2分割SPD受光素子使用　プログラムAE　中央重点測光 ±1.5EVの露出補正可能　スポット測光切替え可能　逆光検知機能付
AE連動範囲	ISO 100:　35mm EV 2 〜EV18　105mm EV3.2〜EV18
フィルム感度	自動設定（ISO 25〜3200）
ファインダー	実像式ズームファインダー　パララックス自動修正　AFフレーム ＋0.5〜ー2.5ディオプターの視度調整可能 測距表示（全点滅で近距離警告）フラッシュマーク(⚡)の点滅で低輝度連動外警告 三脚マーク(⩙)の点灯で手ぶれ警告
フラッシュ	ビルトイン・ズームフラッシュ　手ぶれ限界の低輝度時および逆光時に自動発光する フラッシュマチック機構　発光間隔：約4.5秒 連動範囲（ISO 100）：0.8 〜6m (35mm) 0.8 〜3m (105mm)
セルフタイマー	電子式　作動時間約3秒および10秒　途中解除可能

撮影モード	フラッシュAUTO、ON、OFFモード 単写、連写、10秒、3秒セルフタイマーモード 無限遠、夜景、ポートレート、テレビ、ホワイトバック、簡易連続多重、スポット測光、+1.5EV、−1.5EV、多重撮影、長時間撮影、インターバル撮影の各種モード
撮影表示パネル	フィルム枚数計　裏ぶた開放マーク　フィルム給送マーク 電池マーク　フラッシュモードマーク フィルムドライブ、セルフタイマーモードマーク　撮影モードマーク
フィルム給送	内蔵モーターによる電動式　裏ぶた閉じてスタートするオートローディング　自動巻き上げ　フィルム終了でオートリターン　巻戻し終了自動停止　途中巻戻し可能 最高秒間2コマの連続撮影可能
フィルム枚数計	順算式　液晶パネルに表示　巻き戻し逆算表示
オートデート	液晶表示式デジタルウォッチ内蔵 西暦2019年までの年月日・日時分・写し込みなし・月日年・日月年の5モードを循環　写し込み確認表示付　時刻は秒単位までの調整可能
撮影可能本数	50%フラッシュ使用の時：約35本(24枚撮りフィルム)
電　　源	リチウム電池(2CR5：6V)1コ　カメラ作動と撮影情報表示、オートデート表示を兼ねる単一電源
大きさ・重さ	148×87×83mm　570g(電池別)

＊上記の性能に付いては、当社試験条件によります。　＊製品の仕様、外観は予告なく変更することがあります。